

2017年度 1年国語総合 シラバス

科目名	単位数	学年	学期	必修・選択	対象学科	指導者名
国語総合	4単位	1学年	全	必修	普通科	林 貴子 印 上江洲正人 印 伊佐 苗子 印 島袋 典子 印

1. 科目の概要及び目標

中学校での学習内容をふまえ、国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2. 授業の目標及び授業展開

(1) 授業の目標

- ① 国語で適切に表現し理解する能力を育成するとともに、伝え合う力を高める。
- ② 思考力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨く。
- ③ 言語文化に対する関心を深めるために、現代の文章や古典を読み、読書に親しむ態度を身に付ける。

(2) 授業展開

学級単位、一斉授業で行う。

3. 成績評価

成績の評価は下記の資料に基づいて総合的に行う。

○ 定期テスト

- 学期ごとに中間考査・期末考査を実施する。
- 中間・期末考査は、授業内容からの出題を主とするが、自主学習課題も範囲に加え、応用問題を含めて出題する。

○ 小テスト

- 授業の中で、適宜小テストを実施し、学習意欲の向上を図るとともに学習習慣や学習姿勢も察し、指導する。

○ 提出物

- 授業の進度に応じ、自宅学習むけに課した課題の提出。
- 長期休業中の課題の提出。
- その他、意見文・ノート等の提出。

○ 授業

- 授業の出席状況・発問などに対する主体的な姿勢を評価する。

4. 学習方法

教科書を中心に読み進めていく。必要なときに関連する資料を配り、読解の手がかりとする。夏季休業中には作文や詩歌創作の課題を出す。

5. 使用教科書・副教材

(1) 使用教科書

『精選 国語総合 新訂版』（大修館書店）

(2) 副教材

『やさしくくわしい古典文法』（尚文出版）
『まめまめ古文単語 300』（文英堂）
『クリアカラー国語便覧』（大修館書店）

『漢文必携』（桐原書店）特進のみ
『漢文必携ノート』（桐原書店）

◎授業計画

月	教材	学習内容	評価の観点
4月	現代文編 〔随想〕 挑戦	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	・人物、情景、心情などを、どのように書き手が描いているのかをとらえ、言葉の美しさや深さに気付いている。【読】 ・慣用句の意味を理解している。【知・理】
		文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図をとらえる。	・情景や心情の推移など、文章の筋道を的確にとらえている。【読】
5月 6月	現代文編 〔評論一〕 水の東西	文章の構成や展開を確かめ、書き手の意図をとらえる。	・文章の具体例と抽象的表現を的確にとらえている。【読】 ・文章の組立てについて理解している。【知・理】
		適切な表現の仕方を考えて、対象を的確に表現する。	・日本文化と西洋文化の違いについて、読み手によく分かるよう論理的に説明している。【書】 ・主な常用漢字を文脈に応じて正しく書いている。【知・理】
		語句の意味を理解し、語彙を豊かにする。	・同音異義語について理解し、使いこなせる言葉の数を増やしている。【知・理】
	〔表現〕 意見文	構成を工夫して、自分の意見をまとめる。	・自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示している。【書】
	〔古文入門編〕 『宇治拾遺物語』	文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。	・文章を表現に即して読み、「児」や「僧」の心情や人物像をとらえている。【読】 ・語句の意味について理解している。【知・理】
	「児のそら寝」 古文チェックポイント1	文語のきまりを理解する。	・歴史的仮名遣いについて理解している。【知・理】
	〔古文随筆一〕 『徒然草』 「つれづれなるままに」 「これもまた仁和寺の法師」	登場人物の言動から、その心理を考える。 古語辞典を使って語句の意味を調べる。	・序段の内容から、書き手がなぜこの文章を書いたのか、なぜこのように書いたのかなどに迫っている。【読】 ・語句の意味について理解している。【知・理】
7月	〔詩〕 「いしのうえ」 「一つのメルヘン」 「自分の感受性くらい」	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価する。	・文章の構成やリズム感を確かめ、その特徴について考察している。【読】 ・文書の構成やリズムが、表現上の特別な効果を生み出すことがあることを理解している。【知・理】
8月	夏季休暇（課題：読書感想文）		
9月	〔漢文編 故事〕 「漁夫の利」 「矛盾」	原典に触れることにより、日本語としての成語「漁父の利」「矛盾」の意味を再確認する。訓読のきまりを理解し、書き下し文、口語訳をする。	・訓読のきまり(助詞・助動詞として読む語は平仮名で書き下すきまり)を理解している。【知・理】 ・漢語が、現代語の文章表現の骨格の一つとなっていることに気付いている。【知・理】 ・訓読のきまり(助詞・助動詞として読む語は平仮名で書き下すきまり)を理解している。【知・理】
10月	〔小説一〕 「羅生門」 ズームアップ-芥川龍之介	文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。 幅広く文章を読み、物の見方、感じ方、考え方を豊かにする。 優れた表現についてその条件を考え、自分の表現に役立てる。	・文章に描かれている人物の心情を表現に即して読み、その人物像をまとめている。【読】 ・『今昔物語集』と『羅生門』とを比較し、芥川龍之介の意図について思索している。【読】
11月	〔評論二〕 「自然と人間の関係を通して考える」	文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価する。	・四段落構成やそれぞれの段落の関係など、文章の筋道を的確にとらえている。【読】 ・文章の組立てについて理解している。【知・理】

12月	〔古文 歌物語〕 『伊勢物語』『芥川』	文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。 文語のきまりを理解する。	・地の文と和歌の関係をふまえて男の心情をとらえている。【読】 ・歌物語における和歌の修辞や、語句の用い方について理解している。【知・理】
1月	〔現代文編〕 短歌と俳句	作品の語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。 作品に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	・三十一文字のリズムや句切れをふまえて短歌を読んでいる。【読】 ・短歌の特色に気付き、日本の伝統的な言語文化に対する関心を広げている。【知・理】 ・十七文字のリズムや切れ字をふまえて俳句を読んでいる。【読】 ・俳句の特色に気付き、日本の伝統的な言語文化に対する関心を広げている。【知・理】
	〔古文日記文学〕 『土佐日記』 「門出」	日記の書き手に注目し、表現や文体の特色について理解する。 文語のきまりを理解する。	・表現の技法や文体など書き手の工夫をとらえて読んでいる。【読】 ・語句の意味について理解している。【知・理】 ・文語のきまり(「なり」「ぬ」の識別)を理解している。【知・理】
2月	〔小説三〕 「友よ」	文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。	・言動や情景の描写から、「私」の心情の変化を読み取っている。【読】 ・言葉遣いの変化が、心情の変化を表わすことがあることを理解している。【知・理】
	〔評論三〕 「空気を読む」	文章の内容を必要に応じて要約する。 言語の役割について理解する。	・まずは評論文に親しみ、今後は授業だけでなくさまざまな評論文を読みもののみかたを広げる【読】 ・書かれていることを、客観的に読む。筆者の主張を理解している。【知・理】
3月	〔唐詩〕 絶句 律詩	日本で古くから親しまれてきた代表的な漢詩を読み味わう。	・絶句の形式や起承転結を理解して読んでいる。【読】 ・語句・語彙の構造的な仕組みについて理解している。【知・理】 ・律詩の形式や対句表現を理解して読んでいる。【読】 ・語句・語彙の構造的な仕組みについて理解している。【知・理】